

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年11月28日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0895600021		
法人名	社会福祉法人 青丘		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 青い丘	ユニット名	—
所在地	〒319-0101 茨城県小美玉市橋場美14-1		
自己評価作成日	平成24年6月16日	評価結果 市町村受理日	平成24年11月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0895600021-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0895600021-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年8月22日	評価確定日	平成24年11月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>住み慣れた家庭の延長として、利用者の持つ能力やリズムを大切に、その人らしく安らかに暮らせる様に支援している。</p> <p>「活気ある居場所」を目標に、楽しく充実した時間が過ごせるよう、レクリエーションやおやつ作りに力を入れている。</p> <p>施設の中庭にはトマトやきゅうり、おくら等がとれる家庭菜園を行い、利用者と共に育て、収穫し、食する楽しみが持てるようにしている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者や職員は理念に基づき、住み慣れた家庭の延長として安心して暮らせるよう、家族等と密に連携を図りながら利用者を支援している。</p> <p>近隣に同一法人の特別養護老人ホームがあり、合同で行われる納涼祭には地域の人々や大正琴、ハワイアン・フラダンスなどのボランティアが参加し、利用者も一緒に楽しむ行事となっている。</p> <p>地域包括支援センターや市の担当者とは日常的に連絡を取り合い、必要時には直接訪問して相談をしており、利用者や家族等の安心につながっている。</p> <p>自家菜園ではトマトやオクラ、きゅうりなどを栽培し、利用者が季節を味わえるよう食材に取り入れている。</p> <p>運営母体の系列に医療機関があるため救急搬送体制が整っているほか、隣接している運営母体関連施設とは災害時における協力体制を築いているため、利用者や家族等の安心につながっている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としては「富める者、貧しいもの、全ての人々に心のこもった医療福祉を」を社訓に事業運営している。青い丘においては「住み慣れた家の延長としての親しみのわく活気溢れる居場所にする」を目標にしている。	「住み慣れた家の延長として親しみのわく活気溢れる居場所にする」を理念に掲げ、相談室や居間に掲示するとともに、朝礼時や職員会議で理念に基づく支援ができているかを確認して実践に努めているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念となっていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念となるよう見直すことを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭への参加、歌などのボランティアや、併設している同一法人の福祉施設と合同で行われている納涼祭に地域の人々を招待するなど、日常的に地域住民と交流している。	利用者は地域の祭りに参加したり、市の文化ホールで行われる大正琴の発表会を職員と一緒に見学に出かけている。 隣接する同一法人の介護老人福祉施設と合同で行う納涼祭に婦人会やハワイアン・フラダンスのボランティア、地域の人々を招待し、利用者が地域の人々と交流ができるよう支援している。 近隣住民が野菜のお裾分けで気軽に立ち寄っている。 今年はクリスマス会に近所の幼稚園児を招待することを計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会のにっこり祭りにおいてパネル展示や活動紹介を行い、地域の方への啓発に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員の参加を得て運営推進会議2ヶ月に1回開催し、家庭等には順番に出席してもらえよう依頼をしている。 会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告などを行うと共に、時節にそったテーマを取り上げて話し合っている。	運営推進会議は市職員の参加を得て2ヶ月に1回開催し、家族等には順番に出席してもらえよう依頼をしている。 会議では消防士によるAED講習会を行ったり、利用者の生活の様子や運営状況の報告を行うほか、時節に合ったテーマを取り上げて話し合っている。 市の職員からは地域の行事の案内や感染症予防のパンフレットを提供してもらっている。 会議で出た意見や助言は全職員で話し合い、共有してサービスの質の向上に反映させている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市地域包括支援センターが主催する実務者会議や、ケアマネジャー研究会に参加し、日頃から連携が図れるようにしている。	市担当者に電話や直接出向いて利用者の状況や空き状況を報告したり相談をするなど、日頃から情報交換をして協力関係を築くように取り組んでいる。 市職員が参加する地域密着型の連絡協議会に加入しており、「接遇」などの勉強会の内容を市担当者に相談している。 管理者は地域包括支援センターが主催する実務者会議やケアマネジャー研究会に参加するほか、地域包括支援センターの職員に一人暮らしの利用者の生活上の問題を相談するなど、日頃から連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は身体拘束の弊害を理解し身体拘束をしないケアを心掛けている。 現在身体拘束が必要な利用者はいないが、身体拘束が必要になった方がいる場合に備えて必要書類を準備し、マニュアルも作成している。	管理者や職員は身体拘束の弊害を理解し身体拘束をしないケアを心がけている。 職員が外部研修に参加した後は伝達研修を行い、職員で共有してサービスに活かしている。 玄関や居室の掃き出し口を施錠していないので、自由に外に出られるようになっている。 現在身体拘束が必要な利用者はいないが、やむを得ず身体拘束が必要になった場合に備えてマニュアルを作成し、必要書類を準備している。 マニュアルに禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為の記載が不十分である。	身体拘束排除に向けたマニュアルを見直し、禁止の対象となる具体的な行為を記載して身体拘束をしないケアにつなげることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内に高齢者虐待防止のポスターを掲示し、職員の理解に努めている。 朝のミーティングや職員会議の際にも虐待防止の意識が高まるように話をするように心かけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関先に日常生活自立支援事業や後見制度のパンフレットを置き、いつでも見られるようにしている。 実際には利用には至らなかったが、以前家族に日常生活自立支援事業について説明した事がある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に契約書、重要事項説明書で十分な説明を行い理解、納得して頂けるよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族より意見や要望を頂いた時には直ぐに話し合い検討して対応している。苦情相談受付窓口を重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。 玄関に意見箱を設置し、家族からの意見が取り入れられるようにしている。	管理者や職員は利用者からは日常の会話の中から、家族等からは連絡帳や送迎時、来訪時に意見や要望を聴くよう努めているほか、必要時には直接訪問して話を聴いている。 記名式のアンケートを実施しているが意見等を汲みあげるまでには至っていない。 家族等が意見を出せるよう重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記するとともに玄関に掲示しているほか、意見箱を設置している。 利用者や家族等から出た意見等は職員会議や朝と夕のミーティングで話し合い、運営に反映させている。	無記名のアンケートを実施し、利用者や家族等の意見や要望を汲みあげることが期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設け、申し送りノートに記録して運営に反映させている。	管理者は職員と意見や提案を率直に言い合える関係を築いている。 朝のミーティングで職員の意見等を聞く時間を設け、出た意見等を申し送りノートに記録するとともに話し合い、職員の勤務体制を見直したり、入浴介助の担当が平等になるよう改善するなど、職員から出た意見等を運営に反映させている。 職員の提案を受け、心臓マッサージや人工呼吸の救命救急法の勉強会を事業所内で行うなど、職員の意見等を積極的に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体の病院で月一回の定例会議を実施し要望や意見など話し合い、職員一人一人が向上心を持って働けるよう配慮、対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用時、一か月程度の見習い期間を設けて施設内の業務を指導し、採用を決定している。職場内の研修や職場外への研修にも参加させて職員が育つようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型サービス事業所協議会を立ち上げ、市内にある事業所間での交流が図れるようにしている。又、同協議会の研修を通してサービスの質の向上を図るようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始の面談時より信頼関係を築いていけるように努力している。本人、家族と面会をして不安や心配を取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分な話し合いを行い、家族の思いを良く聞き理解し、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所内のサービス調整だけでなく、関連施設との情報交換や配食サービスなどの利用、協力を頂きながら支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心で安全に楽しく過ごすことが出来るよう配慮し、出来る事は一緒に行ったり進んで行うように声掛け、見守りをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし近況報告をしている。外泊の少ない利用者については面会をして頂けるように働きかけ、本人を支えて行くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく近所の方や友人知人の訪問も快く応じ、関係が途切れないようにしている。又、地域で行われているお祭りにも参加している。	管理者や職員は利用者の家族等だけではなく知人や友人、近隣住民の訪問に快く応じ、利用者との関係が途切れないよう努めている。 職員は利用者が地域の祭りに出かけられるよう付き添ったり、行きつけの美容室の定休日に来訪してもらい、散髪してもらえるよう連絡調整をしているほか、一人暮らしの利用者が行きつけの店で買い物ができるよう支援するなど、利用者地域との関わりを理解し、利用者の希望にそった関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルを回避し、仲良く楽しく生活出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方でも、病院等にお見舞いに行ったり近くに行った時には寄ってみたりして本人、家族の状況の把握に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりの中でコミュニケーションを取りながら本人、家族の希望に沿ったサービスが提供できているか常に話し合い、検討している。	職員は利用者との日常の会話や表情などから一人ひとりの思いを把握するよう努めて記録しているが、他の記録に埋もれてしまっており、区別して記録するまでには至っていない。 思いや意向の把握が困難な利用者の場合は、家族等から生活歴などの情報を得て職員で共有し、できるだけ利用者本位に支援している。	把握した利用者の思いを記録する場合は、見易くなるようにアンダーラインをひくなどの工夫をし、職員で共有することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には十分なアセスメントを行い、これまでの生活環境や馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、その人にあつた過ごし方が出来るように対応している。心身の状態や様子など記録し、申し送りや担当者会議の時に検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてサービス担当者会議を行い、介護計画を作成している。月に一回モニタリングを行い、本人の現状に即した介護計画を作成している。	必要な時にサービス担当者会議を開催し、利用者や家族等の希望を取り入れて現状に即した介護計画を作成するとともに、月1回モニタリングを実施している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録用紙に生活の様子や体調の変化等を記録している。介護日誌、申し送りノートで情報の共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用の変更について当日の連絡であっても可能な限り受け付けている。その時々ニーズに対応し、柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている実務者会議に参加し、日頃より地域の社会資源の把握に努めている。又困りごとや問題がある時には市、福祉課や包括支援センターに相談している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院にて定期的受診を行っている。24時間体制で受け入れて頂ける為、医療体制は充実しているのではと考えている。他病院への通院であっても希望に応じ送迎介助を行っている。	利用者や家族等の協力を得ながら希望にそったかかりつけ医への受診を支援しているほか、協力医療機関へ2週間に1回職員が同行し、定期的な受診を支援している。 希望にそってかかりつけの歯科受診を支援している。 受診が困難な場合は臨時の往診を依頼している。 受診結果はその日のうちに家族等に電話や送り時に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師や関連施設との看護師と情報を共有し、健康管理やケアについての相談を行っている。毎朝ミーティングで状態把握し、計画的に受診や健康管理を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は定期的に面会に訪れるようにし、馴染みの関係を継続できるようにしている。病院関係者との情報交換やアドバイスを受けスムーズに退院が出来るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	母体の病院、主治医と常時連絡できる体制が整っている。家族との連絡を密にし家族の思いや要望に出来るだけ添う対応や支援に努めている。	入居時に利用者や家族等に重度化した場合の事業所の対応について説明し、書面で同意を得ている。 看取りはしない方針だが、書面に明確に示されていない。 協力医療機関と24時間連絡が取れる体制を整えている。 重度化した場合は家族等と連絡を密に取り、家族等の思いや要望にできるだけそえるよう対応をしている。	事業所の方針として看取りはやらないことを重要事項説明書に明確に記載するとともに、利用者や家族等に十分説明して同意を得ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、各職員がいつでも確認できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。関連施設とは定期的に話し合う機会を設けている。消防、警察への協力も依頼している。災害に備えて関連施設に食料や飲料水の備蓄を行っている。	年2回消防署立会いのもと昼間や夜間を想定した避難訓練を実施し、反省点を記録して次回の訓練に活かしているが、地域住民の協力を得るまでには至っていない。 災害時に備え隣接する特別養護老人ホームに食料や飲料水などを備蓄しているが、備蓄品のリストを事業所に備えるまでには至っていない。 事業所独自の備蓄が十分ではなく、リストを作成して管理するまでには至っていない。	運営推進会議などを通して地域住民に避難訓練への参加を呼びかけることを期待する。 災害時に備え飲料水や非常食のほか、懐中電灯、毛布など事業所独自の備蓄品を検討するとともに、特別養護老人ホームや事業所独自の備蓄品リストを作成して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調にならない言葉を心がけ、職員間で確認している。毎朝のミーティングやサービス担当者会議時にも話し合っている。	管理者や職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 排泄に失敗した時はさりげなく声をかけ、誇りを損ねない対応をしている。 個人のファイルは事務室の鍵のかかるロッカーに保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活で本人が発する言葉や表現を注意深く観察し本人の思いや希望を表し、出来る限りそれに沿って支援して自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、一人ひとりの状態やペースに合わせて柔軟なケアを心がけて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度美容師に訪問して頂き、本人の要望を聞き美容師に伝え、散髪している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	運営法人の栄養士が作成した献立の食材が届けられ、職員が調理や準備を行っている。職員も一緒に食事をし、食後ゆっくと自分のペースで後片付けをして頂いている。	法人の栄養士が作成した献立の食材が届けられ、職員が準備や調理を行い、利用者と一緒に食事をしている。 利用者の嚥下機能に合わせて調理したり、嫌いな食材は代替品で対応している。 自家菜園で収穫した野菜などを食材に取り入れて季節感を味わったり、誕生会や外食の機会を設け、食事を楽しむことができるように支援をしている。 利用者はそれぞれの能力を活かしながら職員と一緒におやつを手作りしたり、食事の準備やテーブル拭き、後片付けなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連施設の栄養士の献立により、味付け、栄養のバランス、必要量を確保している。食事の見守り、確認、量や盛り付けの工夫により、バランスよく摂取できるよう見守っている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいの声かけや見守り、義歯の洗浄を定期的に行い習慣づけている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人の排泄のパターンを把握し、時間を見計らって誘導している。可能な限りトイレで排泄が継続できるように支援している。	職員は利用者の生活リズムや排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援をしている。 夜間も時間を見計らってトイレに誘導し、できるだけおむつを使用しない支援に努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や体動等の支援をし、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの意向を大切にしゆっくり入浴できるよう支援している。異性への羞恥心がある利用者には同性の職員が対応している。	一般浴と機械浴の浴室が設置されており、利用者の状態に応じて快適に入浴ができるよう支援している。 週2回から3回を目安に入浴日を設けているが、利用者の状態や希望にそって入浴日を変えたり、シャワー浴や清拭、足浴で対応するなど、個々に応じた支援をしている。 菖蒲湯や柚子湯などを取り入れ、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴をしたり運動をして気持ち良く休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の処方箋をファイルしており、全職員が内容を把握できるようになっている。服薬時には口の中に入れ確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや張り合いのある暮らしが出来るよう又自分らしく過ごす事が出来るように、役割や楽しみ事が持てるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状況や天気に応じてお花見や近隣への散歩など、利用者の希望を把握し企画を実施している。	天気の良い日は事業所周辺を散歩したり、庭でお茶会をして利用者が楽しく外気浴ができるよう支援している。 外出の年間計画は職員で話し合っ決めて、花見やぶどう狩り、紅葉狩り、茨城空港見学に出かけられるよう支援している。 隣設する特別養護老人ホームの納涼祭や地域の祭りに家族等の協力を得ながら外出ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じてお金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける利用者には見守りし自分でかけたり、時には取り次いだりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには、草花を植えてあり食堂には季節の花を飾ったり、廊下には手すりを設置してあります。 日中利用者は食堂にてテレビ観賞やぬり絵等をし心地よく過ごしております。	玄関や居間は四季折々の花や利用者が職員と一緒に制作した手芸品、習字、写真、ちぎり絵などが飾られ、家庭的な雰囲気の中で居心地よく過ごせる空間となっている。 利用者が何時でも休めるよう居間の一角にベッドやソファを設置しているほか、襖で仕切った高床式の和室を設け、利用者が洗濯物をたたんだり、気軽に寛げるように工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の扉やベットサイドのスクリーンを使用して一人に慣れたり、又は気の合った仲間同士でゆっくり出来るように配慮している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	休憩、泊の部屋は出来るだけ同一の利用医者が使用できるように配慮している。使い慣れたものを持参して頂き、安心して過ごす事が出来るように工夫している。	宿泊用の部屋にはベッドやチェスト、洗面台を備え付けているほか、居室の掃き出し窓からは庭へ自由に出来るようになっている。 クッションや抱き枕、ぬいぐるみ、ラジオなど馴染みの物品を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるよう支援している。 体位交換用のクッションなどの必需品は、利用者が普段から自宅で使用している物を持参してもらっている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせて安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護 青い丘

作成日 平成24年11月20日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所の理念が地域密着型サービスの意義を踏まえた理念となっていない	事業所の理念の見直し	職員会議を行い、事業所の理念を検討する。	2か月
2	6	マニュアルに身体拘束禁止の対象となる行為を具体的に記載する必要がある。	マニュアルの見直し	職員会議を行い、マニュアルを見直しする。	2か月
3	10	無記名アンケートの実施出来ていない	無記名アンケートの実施	来年4月頃に無記名アンケートを実施する	6か月
4	23	利用者の思いの把握が分かりやすく表記する必要がある。	ケース記録の記録の仕方の見直し	各職員に記録の取り方を工夫するように指示する。	1か月
5	33	看取り介護を行わない事を重要事項説明書に記載する必要がある。	重要事項説明書の見直しして看取りを行わない事を記載する	重要事項説明書見直しをする。	2か月
6	35	地域住民への避難訓練への参加の呼びかけをする必要がある。災害時の備蓄リスト作成する必要がある。	地域への働きかけ・備品リストの作成をする	地域への働きかけ・備品リストの作成	3か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。